

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	上田市
施設名	上田市交流文化芸術センター(サントミュージゼ)
内定額	3,650 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		308	309
年間事業本数（※1）	主催事業	18	18
	公演事業	11	10
	（内、本助成対象事業本数）	9	0
	人材養成事業	2	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	3
	普及啓発事業	5	5
	（内、本助成対象事業本数）	5	5
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	790	848
	ホール名： 大ホール 座席数： 1530席	260	283
	ホール名： 小ホール 座席数： 372席	265	280
	ホール名： 大スタジオ 座席数： 最大100席	265	285
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	22,271	16,961
	公演事業	12,026	7,925
	人材養成事業	163	558
	普及啓発事業	4,516	4,062
	その他 内容： 共催事業	5,566	4,416
	貸館事業入場者・参加者数	135,000	56,535
	その他 内容： 記入してください		
	計	157,271	73,496
施設の利用率(%)		62.0%	72.8%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	11	25	12,026	71.8%	5	5		1			
	共催・提携公演(※2)	2	5	5,566	72.8%		1					1
	貸館公演(※3)	170	231	83,240	58.6%	5	141	23	1			
	計	183	261	100,832								
令和6年度	主催公演(※1)	10	18	7,925	78.1%	3	4	2	1			
	共催・提携公演(※2)	3	3	4,416	96.2%		3					
	貸館公演(※3)	168	212	65,320	51.3%	5	143	18	2			
	計	181	233	77,661								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	・「新進演奏家リサیتال」出演者の満足度(ヒアリング) ・長野大学の集中講座受講学生の満足度(アンケート) ・上田市新規職員に対するダンスワークショップ(アンケート) ・レセプションист新規採用への応募数 ・レセプションист講座の満足度(アンケート) ・連携館との交流事業参加者の満足度(ヒアリング)	・ヒアリングで概ね好評価を得る。 ・「よかった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上 ・「よかった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上 ・前回比10%増 ・「よかった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上 ・ヒアリングで概ね好評価を得る。	・好評価を得ることができた。 ・「よかった」「概ねよかった」の回答があわせて84%となった。 ・「よかった」「概ねよかった」の回答があわせて89%となった。 ・R5年度:21名、R6:年度24名 ⇒14%増 ・「よかった」「概ねよかった」の回答があわせて90%となった。 ・好評価を得ることができた。	・演奏機会の提供だけではなく、コンサートに関する全般について劇場側からアドバイスを行うなど、初めてコンサートを行う演奏家にとって、安心できる環境で最大のパフォーマンスを発揮でき、事業に対する満足度は高いとヒアリングで感想を聞くことができた。 ・長野大学の集中講座や新規職員に対するダンスワークショップでは、創造力や想像力、コミュニケーション力などを育む機会となり、受講、参加した方々からのアンケート結果を見ても、大変高い満足感を得ていることが分かった。 ・レセプションистとして劇場と関わりたいという高い意欲を持った方が集まり、プロの講師の講座についても充実した内容で、それが参加した全ての方々が高い満足度を持つことにつながったと考える。 ・他館の状況を知ることで、自らの仕事に反映できることが多くあったという報告を受け、交流事業が充実したものであったことを窺い知ることができた。		
普及啓発事業	・レジデントアーティスト(マームとジブシー 藤田貴大)の事業に対する満足度(インタビュー)及びワークショップ、リーディング公演参加者の満足度(アンケート)。 ・音楽事業における「芸術家ふれあい事業」参加アーティストの満足度(ヒアリング)及び受入れ先教職員の満足度(アンケート)、並びに参加児童の満足度(アンケート)。 ・「サントミューゼ・マチネ」の来場者数及び来場者の満足度(アンケート) ・「ブラック・ボトム・プラス・バンドワークショップ＆ライブ」の参加者数及び参加者の満足度(アンケート) ・「実験的演劇工房」におけるアーティスト(守田慎之介)の満足度(ヒアリング)及び参加者の満足度(アンケート)	・インタビューで概ね好評価を得る。 またアンケートでは「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上。 ・ヒアリングで概ね好評価を得る。 また教職員及び児童のアンケートでは「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上。 ・前年度比5%増 「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上。 ・前年度比5%増 「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上。 ・ヒアリングで概ね好評価を得る。 またアンケートでは「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて70%以上。	・好評価を得ることができた。またアンケートでは「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて88%となった。 ・ヒアリングで好評価を得た。 また「良かった」「概ねよかった」の回答が教職員のアンケートではあわせて95%、児童のアンケートでは91%となった。 ・R5年度1,388名、R6年度1,291名 ⇒7%減 「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて86%となった。 ・R5年度18名、R6年度24名 ⇒34%増 「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて94%となった。 ・ヒアリングで好評価を得た。 また「良かった」「概ねよかった」の回答があわせて84%となった。	・レジデントアーティストのインタビュー調査において、やりたいことを共に考えて実現できる、制作能力が高い劇場という評価をいただき、それがまた新しい作品を創り出すことにもつながり、劇場としての好循環が生まれている。 ・開館以来継続することで、事業への理解も進み、体験した教師職員や児童の満足度は大変高い結果となった。また、出演する演奏家からは「学校での演奏はホールとは異なり厳しい条件でありながら、できる限りの環境を整えケアしてくれるスタッフが何より心強い」という意見もあり、このような受け入れ態勢を今後も継続できるよう、スタッフのスキルアップについても高めていきたいと考える。 ・来場者数はわずかに減少したが、満足度については高い水準を維持しており、今後も事業内容の充実を図っていきたい。 ・気軽に参加できるワークショップが公表を得ており、目標を達成する参加者数と、高い満足度を得る結果となった。 ・ヒアリングにおいて、参加者から「学校の垣根を越えて、他校と触れ合う機会はこの『実験的演劇工房』だけで、演劇そのものの学びの場というだけではなく、他者とのコミュニケーションや信頼関係の構築に資するような学びの機会にもなっている」という声を聞くことができた。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・実験的演劇工房に演出家として参加した藤田貴大氏(マームとジブシー)は、「市民の方々に『何かをしてあげよう』という気持ちでやるのではなく、自身のためになるかどうか大切」という考えを持っている。それは、アーティストとしてこの事業を通して上田という地域を新しく捉え直し、上田ならではの表現や創作活動につなげることで、より大きな成果を目指しているためだと考えられる。 【以上、外部評価「上田市交流文化芸術センター 事業・運営検証のための調査 報告書」(2025年3月合同会社文化コモンズ研究所)より抜粋】 ・「新進演奏家リサیتال」は地域の演奏家を支援する目的でスタートした事業であるが、単にリサیتالを開催するだけではなく、コンサートの制作・運営ノウハウを劇場から提供するなど、演奏家と劇場との間に新たな繋がりが生まれ、これをきっかけに自主コンサートを企画する演奏家も出てきた。 ・学校アウトリーチで生の音の迫力や演奏家の人柄に触れ、その後家族を誘い地域の公民館でのコンサートを聴き、そこでさらにファンとなり、初めてホールでのリサیتالに足を運んだ女子児童がいたというエピソードから、ホールが企画する「学校から公民館、公民館からホール」という普及プログラムの目指すところの成果を見ることができた。
--

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・レジデントアーティストによるアウトリーチ活動の実施数 ・アウトリーチ先からリサイタルへの誘導実績(アンケート) ・「新進演奏家リサイタル」出演者の満足度(ヒアリング) ・「新進演奏家リサイタル」のメディア露出度 ・マチとつながるプロジェクトの連携先(民間劇場・犀の角)へのインタビュー調査 ・レジデントカンパニー(マームとジブシー)の地域資源への関心度に関するインタビュー調査 ・長野大学の集中講座参加者数 ・貸館利用率 ・貸館事業の利用者満足度(ヒアリング)	・延べ50件 ・全体で10件 ・ヒアリングで概ね好評価を得る。 ・パブリシティによるメディア掲載5件以上 ・インタビューで概ね好評価を得る。 ・インタビューで概ね好評価を得る。 ・前年度比5%増 ・前年度(平均65%)を維持する。 ・ヒアリングで概ね好評価を得る。	・60件 ・6件 ・好評価を得た。 ・3件 ・好評価を得た。 ・好評価を得た。 ・R5年度25名、R6年度27名 ⇒8%増 ・51.3% ⇒維持できず ・好評価を得た。	・開館以来、継続して年間50件程のアウトリーチ活動を実施しているが、令和6年度は特別編など、通常よりも多くのアウトリーチを実施できた。 ・アウトリーチと劇場内での公演を繋げることだけが目的ではないが、目標を下回る結果となり、アウトリーチからの誘客の難しさを感じている。 ・演奏機会の提供だけではなく、コンサートに関する全般について劇場側からアドバイスを行うなど、初めてコンサートを行う演奏家にとって、安心できる環境で最大のパフォーマンスを発揮でき、事業に対する満足度は高いとヒアリングで感想を聞くことができた。 ・記事掲載の協力をマスコミに依頼したが、想定を下回る結果となった。 ・共同制作を経て、お互いの信頼関係が増し、連携先からも概ね高い評価をいただくことができた。 ・この地域の歴史や資源を基に作品を制作したいというインタビュー結果を受け、目標を達成したと考える。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・音楽事業のアウトリーチを実施する学校教員へのインタビュー調査では、プロの演奏家が子どもたちの自由な感性を引き出している様子や音楽への興味や意欲を高めている様子が聞かれた。また、芸術家ふれあい事業は、教員にとって学びを得る貴重な機会であり、音楽への理解だけでなく、普段の教室では見られない子どもの姿や反応を見ることで、子どもたちをより良く理解することにもつながっているとの意見が聞かれた。 ・学校教員から、アウトリーチは子どもにとって「注射を打てばすぐに効く」ようなものではなく、育てていくものという声があった。音楽に対する先生方の考えは一樣ではないと思われるが、「音楽への理解は逆風が吹き荒れている」との意見なども寄せられ、音楽の授業とは違った体験を享受できるアウトリーチ活動の継続を求める声が相次いだ。 ・アウトリーチを実施したアーティストからは「学校でのアウトリーチを聞いてくれたお子さんとお母さまを連れて公民館やリサイタルにいらしてくださった」と喜びを感じていた。 ・様々な事業で連携してきた、犀の角のスタッフからは、実験的演劇工房は上田市交流文化芸術センターと地域との関係構築にとって大きな存在で、「演劇部の高校生が学校を越えて集まって一人のアーティストと向き合って作品をつくることは、なかなかできないこと」と高く評価している。 ・犀の角のスタッフは、上田市交流文化芸術センターとは「初期のワークショップや上演の会場から徐々につながりができて、創作と上演の場にスイッチして、自主企画の『飛龍伝』のような大きな公演につながってきている」と、連携のあり方が発展してきたことを評価している。 【以上、外部評価「上田市交流文化芸術センター 事業・運営検証のための調査 報告書」(2025年3月合同会社文化commons研究所)より抜粋】
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・若年層の利用者数(U25 チケット販売数) ・多世代の参加を促す事業数と子育て世代の利用者数(親子チケット販売数) ・音楽事業におけるアウトリーチ事業の参加者数 ・市内高校生を対象とする「実験的演劇工房」の参加者数 ・歌舞伎公演、バレエ公演による新規来場者数	・前年度比10%増 ・3事業実施、各公演における親子チケット販売比率5% ・小学校24校での参加者数は前年度同程度、公民館及び定住自立圏でのコンサート来場者数は前年度比5% ・前年度比5% ・前回の公演に比べ、各々5%増	・R5:12.2% R6:12.8% ⇒前年比5%増 ・3事業の予定⇒1事業実施 販売比率18.4% ・小学校児童参加者数 R5年度1,343名、R6年度1,289名 ⇒4%減 公民館等来場者数 R5年度1,099名、R6年度943名 ⇒14%減 ・R5年度12名、R6年度14名 ⇒16%増 ・歌舞伎公演 新規来場者数 R5年度598名、R6年度1,277名 ⇒113%増 バレエ公演 新規来場者数 R5年度680名(客席50%)、R6年度1,165名 ⇒71%増	・目標には届かない増加率であったが、今後更なる努力を重ねたい。 ・実施事業数は予定よりも減少したが、販売比率については想定を大幅に上回った。 ・参加校の数(24校)は維持したが、児童数の減少により参加者数は前年比4%減。また、地域での公民館コンサートは天候不良等の要因もあり、来場者数が前年比14%減。いずれも目標を達成できなかった。 ・高等学校の演劇班員の減少から、参加者は前年度と同数であったが、OGを起用することで前年対比16%を達成 ・歌舞伎公演では、親しみやすいプログラムであり、公演日が夏休み期間であったことから、小学校や子育て世代へ向けた広報を積極的に行い、前年対比113%を達成。 バレエ公演では、地元のバレエ教室への紹介の他、放送局との連携による広報を積極的に行った。また、準フランチャイズオーケストラである「群馬交響楽団」を、合唱に「清明小学校」を起用するなど、サントミューゼ独自の試みを行い、前年対比71%を達成。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・実験的演劇工房は、参加者にとって、演劇に対するイメージを変えるような大きな刺激を受けるだけでなく、ワークショップから公演までの経験を通して他者とのコミュニケーションや信頼関係の構築に資するような学びの機会となっている。また、それがきっかけとなって進路やその後の人生が大きく変わって、上田市交流文化芸術センターのスタッフとなった参加者や、演劇を学ぶ大学への進路を決めた参加者なども出ている。 ・令和6年度の実験的演劇工房の公演での来場者観察レポートによると、「この事業が初めての上田市交流文化芸術センターでの鑑賞経験というお客様も多く、センターに来場するきっかけ作りの事業になっているのではないか」「上田近隣で育つ若者に非常に大きいギフトとなっているプロジェクトだと感じた」というコメントが寄せられている。 【以上、外部評価「上田市交流文化芸術センター 事業・運営検証のための調査 報告書」(2025年3月合同会社文化commons研究所)より抜粋】

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	企業の支援を促す「サントミューゼパートナーズ」の拡充。	前年度比10%の協賛社増。	R5:16社 R6:36社 ⇒125%増	企業に対する働きかけを積極的に行った結果、大幅に協賛社数を増やしたことは、想定以上の成果があったと評価できる。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	音楽・演劇・ダンスの専門人材が配されているが、将来に向けて若年層の人員増が求められる。	来年度に向け、専門人材1名の確保を目指す。	専門人材の確保:0名	今後の事業の持続可能性を考える上で専門人材の確保は急務であり、引き続きその確保に努めていく。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	市が整備する制度に則り、推進しているが、一部職員に業務が集中している実態がある。	職員のスキルアップとともに業務分担の見直しをはかる。	時間外勤務の時間数(職員8名の総計) R5:3,488時間 R6:2,730時間	職員のスキルアップや業務分担を見直すことにより、時間外勤務の縮減につながった		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

・当館のミッションに基づき、基本理念の根底にある「育成」を具現化する事業として、劇場内外での「芸術家ふれあい事業」を予定通りに実施することができた。

・特に演劇事業では、マームとジブシーを主宰する藤田貴大氏をレジデント・アーティストとして招き、前年度から取り組んできた上田地域のリサーチ及び当館職員へのインタビューを踏まえた作品を、上田市立美術館での展覧会として実現することができた。ホールと美術館からなる複合施設としての特徴を活かす象徴的な取組みで、劇作家・演出家の藤田氏にとっても新たな可能性を拓く試みとなった。

・高校生と創る「実験的演劇工房」は劇作家・演出家の守田慎之介氏を招き、市内高等学校の演劇班の生徒たちと作品創作から公演までを行った。今回で11回を数えることから、本事業の経験者で、現在は俳優として活動しているOGや芸術大学に在学しているOGに演出アシスタントや舞台スタッフの役割を担ってもらうことができた。事業を継続してきたゆえの成果と考えている。

・音楽事業では、第一線で活躍するアーティストが市内小学校全24校を訪れ、5年生を対象とする「クラスコンサート」を円滑に行った。あわせて公民館等での「ふれあいコンサート」を行い、最終的に当館でのリサイタルへとつなげることで、アウトリーチからインリーチへ、子どもから家族へと連関する体験と鑑賞の循環を促すことができた。

・当館小ホールにおいて廉価で楽しめる「サントミューゼ・マチネ」は平日昼の実施ながら高いリピーター率を誇っており、一定のファン層を獲得する基盤となっている。また同企画の出演者による定住自立圏連携コンサートは、近隣地域も含む文化拠点として当館の存在感を示し、当市の文化施策に対する幅広い理解を得る事業として位置づけられている。

・助成対象事業ではないが、新国立劇場のバレエ公演『くるみ割り人形』において、演奏に準フランチャイズオーケストラの群馬交響楽団を招へいし、同楽団にとっても貴重な経験を積む機会を提供できた。さらに同演目の前編に入る合唱には、市内の清明小学校の子どもたちを起用して、上田ならではの公演を実現した。舞台に立った子どもたちをはじめ友人や家族、合唱指導の先生にも大きな喜びとなったと思う。長きにわたる群馬交響楽団との連携協力関係と、開館以来継続してきたアウトリーチの蓄積があったからこそ成し得た、大きな成果と考えている。

・人材養成事業では「うえだ地域文化リーダー育成プログラム」において、長野大学の学長から高い評価をいただき、市の新規職員を対象とする研修では、同期のワークショップ経験者のコミュニケーションが良好であるとの指摘が市上層部よりあり、いずれも継続を求める声が寄せられている。

・同じく人材養成事業の「劇場スタッフ育成・交流事業」では、地元採用のレセプションистが研修とOJTを重ねながら相互に高め合うチームワークが形成され、劇場の顔としての役割を十分に果たすに至っている。一方で舞台技術スタッフについては、上記『くるみ割り人形』公演に絡めた新国立劇場への派遣にとどまり、現場を抱えるスタッフが外部との交流を図る機会を創出する難しさを感じた。

・経営の安定化に向けた取組みとして、10周年を機に再整備した「サントミューゼ・パートナーズ」制度が奏功し、地元企業を中心に支援の輪が拡大している。

・当館の第3期管理運営計画（令和8～12年度）の検討に資することを目的に、第2期運営管理計画を遂行している令和2年から令和6年度までを対象期間とする「事業・運営検証のための調査」（委託先：文化コモンズ研究所）を実施した。同報告書で示された成果と課題に基づき、次期計画の策定に臨みたい。とりわけ、直営館ならではの人員配置と専門人材の獲得及び育成については、当館の持続可能性を担保するうえで重要な事案と認識している。

・所見

